

議事(4)

令和7年度地域ケア会議の取組みについて

令和7年度地域ケア会議の取組み
平地区

平 地区地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

【地区の背景】

広大な土地・人口を有しており市街地や山間部、海岸部等地区によって特徴がある。そのため地区の課題やニーズも様々である。

【抱える課題】

高齢化に伴い、運転免許所を返納し自動車を手放す高齢者が増えている。しかしながら、市街地から外れると公共交通機関が未発達であり買い物等移動を伴う日常生活が困難となる。

そのため

2.これまでの主な取り組み

【これまでの主な取り組み】

平地区在住の高齢者を対象にアンケートを行い、移動手段、移動目的等の回答から、各方部ごとの特徴を可視化した。

これからは

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

アンケートで可視化された課題や実際の声を既存事業等にフィードバックするとともに、地域資源を中心とした連携による解決を図る。

【今後の取り組み】

- アンケートの結果を深掘して地域の問題点をさらに、洗い出す。
- 地域に足を運び利用できそうな資源を開発する。

アンケートにより可視化された各方部の特徴（例）

第〇方部の特徴

自動車の稼働率が低く、徒歩、自転車での移動が多い
移動の頻度は多く、習い事・趣味の活動も充実している
バス利用の需要は低い

第〇方部の特徴

徒歩、自転車での移動が多い
移動の頻度は多く、食事を目的とした外出も多い
移動に費用が掛かるという理由で外出を控えている

令和7年度地域ケア会議の取組み
小名浜 地区

小名浜 地区地域ケア会議の取り組み

1. 地区の背景・抱える課題

ごみ出しサポート支援事業

【地区の背景】

湘南台は1990年代に造成された住宅地
高齢者のみ世帯・高齢者単身世帯が増加

【抱える課題】

近所の支援者も高齢化、朝のごみ出しは大変
ヘルパーも不足しており、早朝のサービス提供は難しい

そのため

2. これまでの主な取組み

【これまでの主な取組み】

湘南台地区での小地域ケア会議において、
ごみ出し支援の負担軽減を図るため、
対象世帯のごみ出し時間を前日の午後から
に拡大し、検証を行うモデル事業の実施を
決定

- 湘南台の一部集積場で**モデル事業**を実施
(R7.2.5～R7.2.28)
- 湘南台の一部で**第2回モデル事業**を実施
(R7.9.1～R7.10.31)

これからは

3. 今後の取組み・目指す姿

【目指す姿】

ごみ出しを行う当事者や支援者の負担軽減
を図り「高齢になっても、障がいがあっても
誰もが住みやすい街づくり」を目指す

【今後の取組み】

2度のモデル事業によって得られた結果を
検証の上、地域を主体として取組みを進め
るための持続可能な仕組みをつくる

おなはま認知症オレンジデー 🍊

【地区の背景・抱える課題】

港湾地区であり、大型商業施設もあるため
人口集中が見られる小名浜地区
一方で高齢化も進んでおり、地域全体で
認知症の人々を支えていく必要がある



認知症の当事者、家族や地域の支援者など、
さまざまな立場から認知症について考え、
学べる機会に高いニーズ

そのため

【これまでの主な取組み】

R7.9.21(日)、世界アルツハイマーデーに
合わせ、イオンモールいわき小名浜「イオン
ホール」にて小名浜地区地域ケア会議主催
のイベント「おなはま認知症オレンジデー
～みんなで学ぶ、認知症のいまとこれから
～」を開催。325人が来場！

認知症に関する講演、認知症予防体操、
各種展示・体験ブースを通して、認知症の
正しい理解と認知症予防の普及啓発を図
った

これからは

【目指す姿】

「認知症になっても、住み慣れた地域で安
心して暮らし続けることができる地域づく
り」を目指す

【今後の取組み】

イベントだけでなく、さまざまな機会を活
用した普及啓発を通じて、小名浜地区全体
で認知症に関する知識の進化と意識醸成を
図っていく

ごみ出しサポート支援事業



↑対象者のヘルパーが、前日の夕方にゴミ出しをする様子



↑ごみを出した際の気温を記録するため
集積場に温度計を設置



おなはま認知症
オレンジデー



いわき市病院協議会理事長 高萩周作先生
による講演「最新の認知症診断と治療」



各種健康測定



かしま病院 根本康弘PTによる
認知症予防体操



お薬相談
コーナー



アロマしおりづくり



エンディングノート

令和7年度地域ケア会議の取組み
勿来・田人 地区

勿来・田人 地区地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

地域高齢者の認定率

【地区の背景】

軽度の介護認定者が増加傾向にある。また、疾病傾向として、要介護認定者は高血圧に罹患している者が最も多く、次いで、整形外科疾患、脳血管疾患、認知症と続いている。

【抱える課題】

コロナ禍の影響もあり、要介護認定率も上昇している中で、要介護状態にならないため、健康寿命をいかに長く保つかが重要である。

そのため

2.これまでの主な取り組み

【これまでの主な取り組み】

令和6年度においては、高齢期において健康寿命を維持するため、「フレイル予防」の重要性が地域の幅広い関係者間で共有されるよう努めている。

令和7年度においては、新たな体制（高齢者、障がい者、子ども分野）での地域ケア会議を開催し、地区の人口動態や介護保険認定状況に加え、認定者の疾病傾向の分析等をもとに、各委員から意見を聴取して議論を深めている。

これからは

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

地域の高齢者の健康寿命の維持・延伸を促進させるための、効果的なフレイル予防や介護予防活動が日常的に楽しく行われ、一人ひとりが生きがいを持って生活できるような地域づくりを目指す。

【今後の取り組み】

地域ケア会議において、現在の既存の社会資源を確認しながら、今後どのような形のもので、どの程度地域に必要であるか議論を進めてゆく。

オレンジカラー大作戦

【地区の背景】

地域内に認知症患者が増え、それに伴い認知症の相談件数が増加した。また、地域全体で認知症高齢者等のサポートができる体制構築が急務である。

【抱える課題】

認知症患者に対し、どのような形でどのようなサポート体制の構築ができるのかが課題である。

そのため

【これまでの主な取り組み】

地域の広い方々へ取り組みの趣旨を理解していただき、地域住民（主にボランティアや通所サービスの利用など）がマスコットである「ロバ隊長」を作成し、管内企業や学校、スーパーマーケット、事業所等に設置し、あらゆる年代の方々に自分事として考えるきっかけを作る取り組みをしてきた。

また、管内の企業や関係機関に対し、認知症ポーター養成講座を開催してきた。

これからは

【目指す姿】

認知症の方でも、皆が安心して暮らせるよう地域の中にサポートできる人やお店を増やす“お互い様”の社会への活動を促進する。

【今後の取り組み】

医療機関、薬局、金融機関、スーパーマーケットにポスターやチラシの掲示を促し、現在も取り組み継続中。また、出張相談会を実施しており、認知症についての理解を深め、不安や疑問を解消し、適切な支援につなげる。

写真・取組み事例掲載ページ

○勿来・田人地区地域ケア会議



○オレンジカラー大作戦

【お問合せ】
勿来・田人地域包括支援センター
0246-63-2140
認知症地域支援推進員 石川

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が
令和6年1月1日、施行されました。

おれんじカラー大作戦2024

おれんじカラー大作戦って??
認知症を持った人も、みんなが安心して暮らせるよう地域の中にサポートしてくれる人やお店を増やす活動です。
「おたがいさま」の社会へと、私たちが導いてくれるマスコット「ロバ隊長」が目印です。

なぜ「おれんじ」なの??
おれんじ色は認知症啓発のシンボルカラーです。

「おたがいさま」と、誰もが笑顔で支え合うまちづくりを目指しロバ隊長が一步一步、歩みを進めていきます。
9月のアルツハイマー月間を中心に、「おれんじカラー」を広める作戦に、あなたも参加しませんか?

ON SOCIAL MEDIA
みんなで「ロバ隊長」を作って、飾って、遊ばせて☆
SNSにハッシュタグ
#いわずおれんじカラー大作戦
#認知症 と、隊長の写真を載せて投稿してあげ



令和7年度地域ケア会議の取組み
常磐・遠野 地区

常磐・遠野 地区地域ケア会議の取り組み

① 買い物支援

1.地区の背景・抱える課題

【地区の背景】

高齢者の入居者が多い公営住宅がある八仙・浅貝地区において、徒歩圏にあったスーパーが移転した。

【抱える課題】

車を持たない高齢者の買い物が困難な状況となった。

そのため

2.これまでの主な取り組み

【これまでの主な取り組み】

地域の介護保険事業所の協力により、75歳以上の高齢者を対象に毎月木・土曜日に2回ずつ買い物支援を実施。

◆ 協力事業所

- ・ 喜雲館
- ・ リフレ&スパさはこ
- ・ サンライフゆもと

これからは

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる生活環境を整備する。

【今後の取り組み】

事業所独自に買い物支援を実施している「いわき湯本病院」「いわさき荘」の取組とあわせ、引き続き買い物支援を実施していく。

② いきいき健康塾

1.地区の背景・抱える課題

【地区の背景】

常磐・遠野地区は全国的な傾向と同様、出生率の低下とともに人口の高齢化が進行している。

【抱える課題】

生活習慣病の増加及びそれに伴う要介護状態等が増加する傾向が依然として続いている。

そのため

2.これまでの主な取り組み

【これまでの主な取り組み】

常磐・遠野地区にお住まいの65歳以上の方を対象とした講座を実施。「健康増進のための活動」及び「認知症等に関する取組」を一体的に学習する機会として、地域で活動する専門職の協力のもと、各種講座を実施。

これからは

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

健康寿命の延伸と地域づくりの意識醸成並びに高齢者の社会参画の促進を図る。

【今後の取り組み】

継続的に当該事業を実施することで、常磐・遠野地区における高齢者の健康づくりに寄与する。

② いきいき健康塾

1 常磐地区(常磐公民館)

- ・第1回 令和7年4月：作業療法士
「入塾式」及び「生きがいづくりとは」
- ・第2回 令和7年5月：理学療法士
「からだのフレイル、知っていますか？」
- ・第3回 令和7年6月：言語聴覚士
「加齢性難聴の特徴、難聴と認知症について」
- ・第4回 令和7年7月：薬剤師
「適切な薬物療法とフレイル対策」
- ・第5回 令和7年8月：管理栄養士
「フレイルと栄養状態」
- ・第6回 令和7年9月：作業療法士
「認知症と作業」
- ・第7回 令和7年10月：理学療法士
「体力測定」
- ・第8回 令和7年11月：管理栄養士
「調理実習」
- ・第9回 令和7年12月：歯科医師
「オーラルフレイルと口腔機能低下症について」
- ・第10回 令和8年1月 ※調整中
- ・第11回 令和8年2月 ※調整中
- ・第12回 令和8年3月
「卒塾式」

2 上遠野地区(上遠野公民館)

- ・第1回 令和7年5月：作業療法士
「入塾式」及び「生きがいづくりとは」
- ・第2回 令和7年6月：薬剤師
「適切な薬物療法とフレイル対策」
- ・第3回 令和7年7月：言語聴覚士
「加齢性難聴の特徴、難聴と認知症について」
- ・第4回 令和7年8月：理学療法士
「からだのフレイル、知っていますか？」
- ・第5回 令和7年9月：管理栄養士
「フレイルと栄養状態」
- ・第6回 令和7年10月：理学療法士
「体力測定」
- ・第7回 令和7年11月：歯科衛生士
「オーラルフレイルと口腔機能低下症について」
及び「卒塾式」



【常磐地区の講座の様子】



【遠野地区の講座の様子】



【体操をしている様子】

3 入遠野地区(入遠野公民館)

- ・第1回 令和7年5月：薬剤師
「入塾式」及び「適切な薬物療法とフレイル対策」
- ・第2回 令和7年6月：言語聴覚士
「加齢性難聴の特徴、難聴と認知症について」
- ・第3回 令和7年7月：理学療法士
「からだのフレイル、知っていますか？」
- ・第4回 令和7年8月：歯科衛生士
「オーラルフレイルと口腔機能低下症について」
- ・第5回 令和7年9月：作業療法士
「生きがいづくりとは」
- ・第6回 令和7年10月：管理栄養士
「フレイルと栄養状態」
- ・第7回 令和7年11月：理学療法士
「体力測定」及び「卒塾式」

令和7年度地域ケア会議の取組み
内郷・好間・三和 地区

1.地区の背景・抱える課題

【地区の背景】

- ・市平均よりも高齢化率が高く、高齢化が進行している。
- ・高齢者のみの世帯が年々増加しており、うち半数以上が単身世帯。
- ・一人暮らし高齢者に関する相談が増えている。
- ・認知症の相談が増えており、症状が進行してからの相談が多い傾向にある。
- ・健診受診率が低く、生活習慣病のリスクが高い。

【抱える課題】

- ・孤立の問題（付き合いの減少・喪失、悩み・困りごとの抱え込み）
- ・買い物などの外出・社会参加機会の減少
- ・生活習慣病の予防や認知症理解の啓発

そのため

2.これまでの主な取り組み

【これまでの主な取り組み】

（取組の方針）

身近なスーパーに交流拠点をつくり、住民同士の交流・相談・参加機会を創出する。

- イートインスペースでの交流サロンの運営
買い物中の休憩や、住民同士の交流、専門職への相談や学習など、店内イートインスペースをサロンとして活用する。

- 買い物支援

ボランティアを活用しながら、商品選びや支払いなどサポートを必要とする方の買い物付添の支援を行う。

（取組の内容）

市民・関係機関に地域活動への参加と協働を促すための啓発イベントの実施

- マルトSC高坂店店員向け認知症サポーター養成講座
- 住民向けワークショップ
- スーパー店内でのインスタントシニア体験会

これからは

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

- **1人ひとりが健康でいきいき暮らし活躍できるまち**

地域住民が介護予防や健康づくりに主体的に取り組めるよう、フレイル予防の普及啓発や社会参加の機会づくりをすすめる。

- **住み慣れた場所で安心して生活を続けられるまち**

単身高齢者や認知症高齢者の増が見込まれることから、地域の資源や、住民の力を生かしながら、多様な生活支援の充実を図る取組の実践をすすめる。

【今後の取り組み】

地域の多職種・地域団体と協働しながら、住民同士の交流・学び・相談の機会をつくり、地域課題の解決を図っていく。

- 啓発イベントの開催（予定）

住民向けワークショップ（テーマ：地域福祉・認知症）

「誰もが暮らしやすいまち」についてともに考えるきっかけを提供し、市民のボランティア活動への参加意欲の促進や、地域福祉への主体的な参加と協働を促す。

インスタントシニア体験会inマルト高坂店

スーパーと協働し、買い物場面で高齢者等が直面する困難さや不自由さを疑似的に体験することで、介助される側の気持ちやコミュニケーションにおける配慮を学ぶ。

また体験を通じて、バリアフリーに対する理解を深め、誰もが住みよい「共生」のまちづくりについて考えるきっかけとする。



令和7年度地域ケア会議の取組み
四倉・久之浜大久 地区

1.地区の背景・抱える課題

【地区の背景】

- ・路線バスの運行区域が縮小・廃止され公共交通機関の空白地帯が拡大した。
- ・高齢化率が高く、あらゆる団体において担い手の高齢化が顕著である(四倉37.75%、久之浜大久42.13%、市平均32.90%。R7.10.1現在)

【抱える課題】

- ・移動販売や配食サービスなど山間部まで対応してくれる事業所が少ない。限られている。
- ・働き方改革による雇用の延長で民生児童委員やサロン等、後継者のなり手がいない。リタイア後はゆっくりしたいと断られることも多い。
- ・認知症への理解が不足している。特に初期段階においての症例や相談先の情報が少なく、認知症が進行してからの受診や介護保険の申請に至るケースが多い。

そのため

2.これまでの主な取り組み

【これまでの主な取り組み】

- ・定額タクシー制度について、2度の実証事業を経て「久之浜大久・四倉地区交通対策協議会」が設立され、令和7年10月より本格稼働を開始した。地区地域ケア会議に所属する委員や支所職員が当該協議会の委員・事務局として関わっている。
- ・配食サービス制度の見直しに伴い、9月26日、小地域ケア会議(久之浜・大久地区)を開催し、食の確保と地域資源について協議した。
- ・高齢者のいきがづくりと介護予防を目的とした「うしお大学×よつくら塾」の開催
- ・「よつくら版認知症ケアパス」の策定に向け、10月22日に第1回作業部会を開催し、冊子の内容について協議した。

これからは

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

- ◎認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現
- ・自家用車を運転しなくとも高齢者が生活可能なライフスタイルの実現
- ・地域で活躍できる介護予防のリーダーやボランティアの育成・確保
- ・認知症に対する不安や心配に対する相談先や仲間と出会える場の情報提供、支援やサービスにつながりやすい仕組みの構築

【今後の取り組み】

- ・定額タクシー制度の普及・啓発
- ・食の確保に関する地域資源の発掘・情報の共有、新たな取り組みの検討
- ・「うしお大学×よつくら塾」の継続開催
- ・「よつくら版認知症ケアパス」の策定と必要とされる場所への配布

写真・取組み事例掲載ページ



「うしお大学×よつくら塾」
第3回講義の様子



「よつくら版認知症ケアパス」
第1回作業部会の様子

令和7年度地域ケア会議の取組み
小川・川前 地区

小川・川前地区地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

人口減少や高齢化の急速な進行、若年層の地区外への流出等により、単身高齢者や高齢者のみ世帯が増加している。併せて、複合的な課題を抱える8050世帯や、地域から孤立する世帯も増加傾向にあり、地域のつながりの維持、構築が求められている。

そのため

2.これまでの主な取り組み

○「小川寺子屋」の開催
高齢者の「生きがいづくり」や「介護予防と健康寿命の延伸」を目的に平成28年度から事業を開始。令和元年度以降は水害とコロナにより休止していたが、令和5年度より再開し、令和7年度は14名が参加している。

第1回 (R7.6.11)
オリエンテーション、グループワークにて地域課題の共有および今後寺子屋で学びたいことの意見交換

第2回 (R7.7.15)
健康測定、減塩メニューの試食

第3回 (R7.10.7)
口腔・嚥下機能の維持向上に関する講話、トレーニングの紹介

これからは

3.今後の取り組み・目指す姿

小川寺子屋にて、介護予防の啓発ほか、参加者が楽しみながら交流でき、学びを深められるようなプログラムを検討していく。

また、小川寺子屋の参加者と地域で活動している団体（つどいの場、こども食堂等）の交流機会を作ることで、地域住民が主体的につながり、活動できるような地域を目指す。

**第1回 小川寺子屋
(令和7年6月11日開催)**



グループワークにて、地域で生活する上での課題や、今後寺子屋で学びたいことの共有を行いました。

**第2回 小川寺子屋
(令和7年7月15日開催)**



健康測定（骨密度、AGEs測定等）や減塩メニュー試食を通し、自分の体や食生活を見直す機会となりました。

**第3回 小川寺子屋
(令和7年10月7日開催)**



口腔・嚥下機能の維持向上をテーマに自宅で簡単にできるトレーニング等を学びました。